

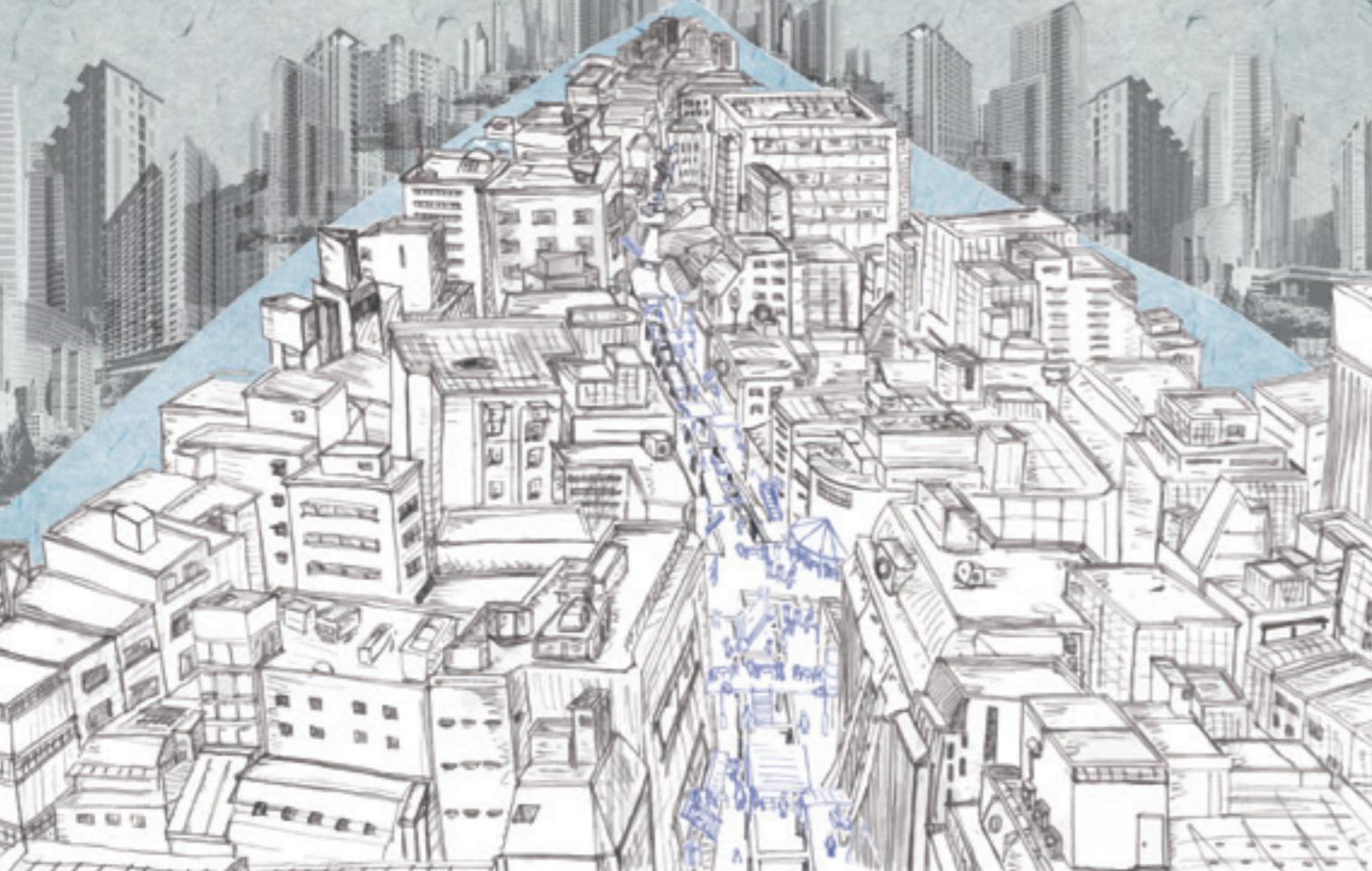
中洲

自治的活動から考察する中洲における建築と都市の可能性

上田成夢

project concept

本プロジェクトは中洲という川に囲まれた地形が作り出す繩張り意識とも言える自治という概念を頼りに建築と都市を提案する。中洲というまとまりを持った一つの領域を再考し、都市がシステムとともに際限なく広がって存在するのではなく、中洲を一つの舞台にして生活する風景をこの島のビジョンとして提示する。



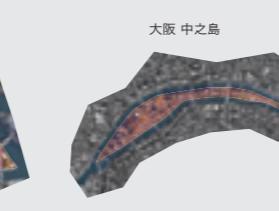
background

近代が前提とした均質な都市空間は再考すべき時を迎えており、地域の文化や歴史に着目し、他と差異化を試みる運動が各地で頻発していることがそれを示している。都市の地域性とはなんであろうか。また都市が地域性を持つとき、建築が提供しうる価値とは何か。本提案では均質な都市空間に対するアンチテーゼとして、中洲という地形が作り出す豊かさ（特殊性）を建築として提案する。

○特殊性を失くす広がり



○特殊性を育む閉じた領域



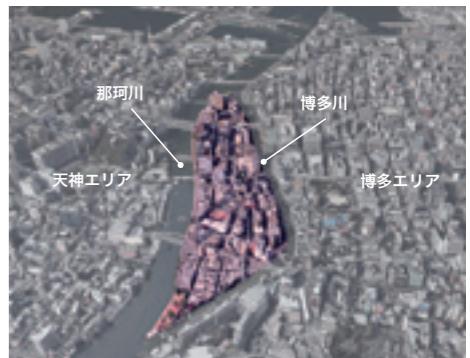
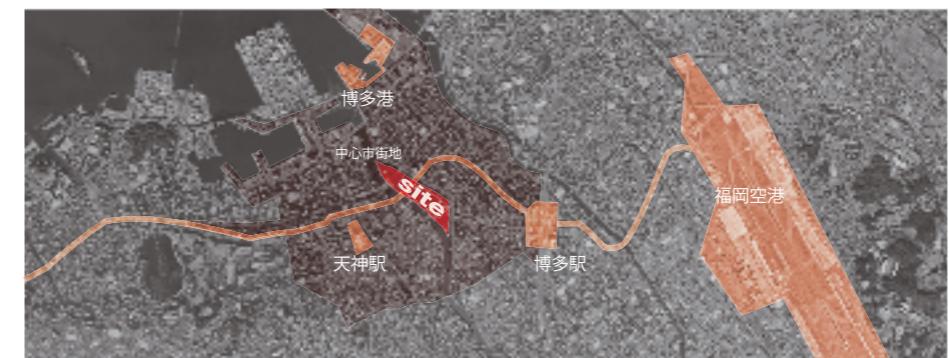
都市は多様な要素の集合である。しかし、際限なく広がる計画道路とそれによってできた街区割は都市の豊かさを均一なものにしてしまっている。

四方を川に囲まれた中洲という地形では、川は縁を切る装置として機能し、周辺とは不連続な界隈性を持つ。均質に広がった都市の中で、中洲という閉鎖的な地形は周囲に干渉されず地域性（特殊性）を育むことのできるポテンシャルを持つ。そのことから中洲という地形は単に独立しているということだけでなく、それに見合ったアイデンティティがその島の豊かさとして存在している。敷地とする福岡の中洲も同様に、この島としての他とは違った空間を模索することができるのではないかと考えた。



site location: 福岡の中心の島

敷地である中洲はその名の通り中川とは片側の間にできた大きな中州である。長手約 1500m、短手約 250m の大きさで、福岡の中心である博多駅、天神駅、臨海部からほぼ同距離でそれぞれの中心に位置する。また博多湾や福岡空港など周辺都市と国際的につながりを持つ福岡は多国籍な文化の影響を受けている。コンパクトにまとまつた都市は、地元民だけでなく観光客も多数訪れ活気に満ちている。



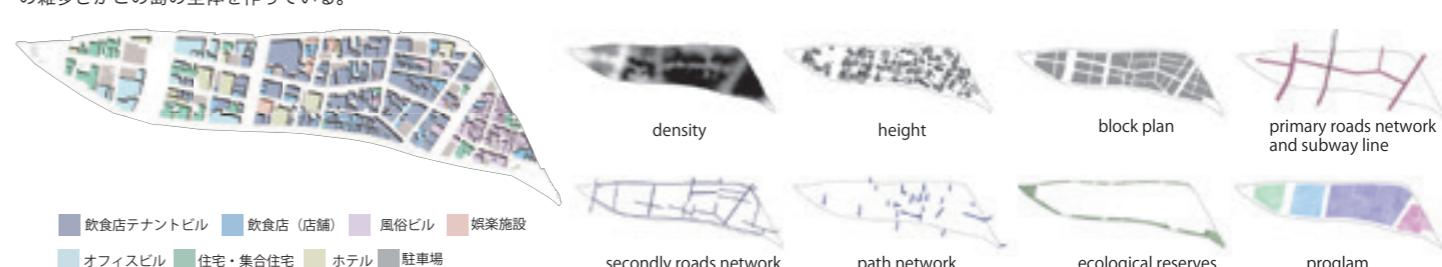
site history: 悪所として独立した中洲

江戸時代、武士の町福岡と商人のまち博多を結ぶ交通の要所として当時であった中洲が整備されたのがこの土地の歴史の始まりである。その頃からこの地域では地形ゆえに、遊郭や料亭、芝居小屋など、都市の悪所的な機能が中洲全体に集まつた。武士も商人も関係なく多くの人やものが集まるこの地は、周辺とは無縁の桃源郷であった。



site analysis: 多様性が文化として根ざした島

商業店舗や娯楽店舗、サービス業の店舗が集積した中洲は経済活動の中心である。密度・高さ・プログラム・大小様々なスケールの通りなど、空間として機能としての雑多さがこの島の全体を作っている。



中洲はいくつもの小さな断片の集合である。それぞれの建物がキャラクターをもち、集合することでプログラムの領域を示す。中洲を横断する大きな道路がこれらのプログラムにはっきりとした境界を作る。この境界を島としての大きな境界に変化させることでまとまりのある一つの中洲が作られるのではないかと考える。



objective : 中洲の様相（全体性）をつくる

中洲は島として独立しているという地形的な魅力に加えて、道を占拠して立ち並ぶ屋台や独立した領域を持つ風俗街、飲食店の密度などに代表されるように、この島を自分のものとして獲得していくような活動が、部分的な空間として現れている。そのような中洲のアイデンティティを自治として捉え、設計の手がかりとする。雑多さの中にある自治という一つの豊かなテーマのもとで全体を計画することで、部分が全体を形作るような中洲の様相を提案する。



ブラジル ファベーラ



タイ メークロン市場



道を占拠して立ち並ぶ屋台



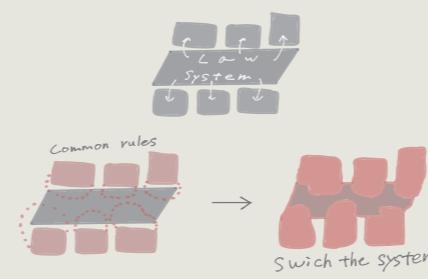
道に迫り出した看板や設備



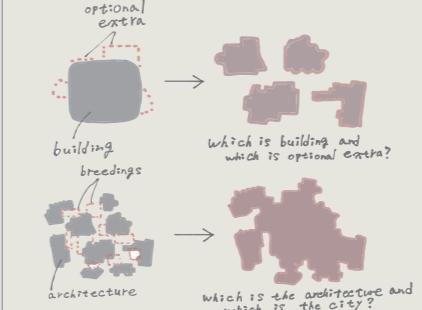
風俗街の閉鎖性

ここでいう自治とは、自治組織や組合といった公的なものではなく、縄張り意識や個人の自主性の伴うものであり、極めて私的な自治である。

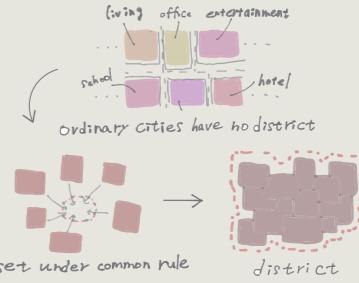
・民主性
自治的に広がっていく空間は既存の法律やシステムに縛られない大きなルールを作る。メークロン市場では本来主であるはずの線路と自主的な店舗の活動によって現れるアーケードがスイッチする。



・繁殖性
居場所を自主的に獲得しようとする行為とそれに伴って現れる空間は自治的な空間といえる。増殖と侵食を繰り返すことで一つの建築であるかのような様相をつくる。



・閉鎖性
自治と共に現れる空間には低所得者の居住、商売などの共通認識のもとで集合し、まとまった領域と境界を作る。そしてその大きな領域が普通の都市とは対照的なシルエットとして現れる。

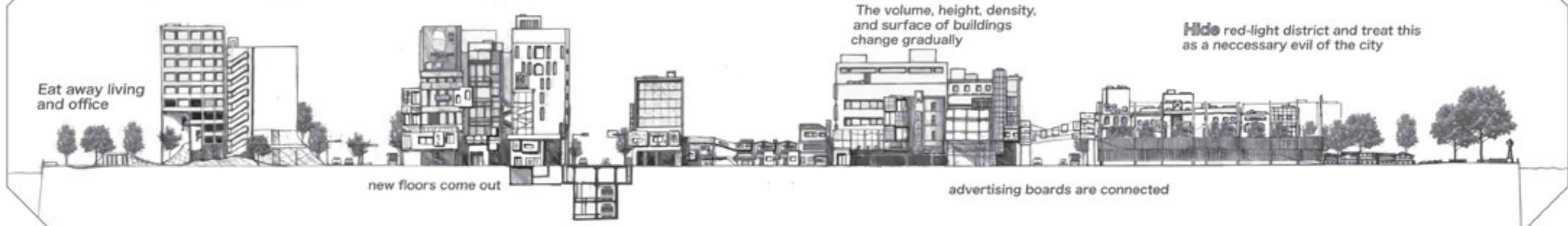


imagination drawing:自治の空間化による様相の変容

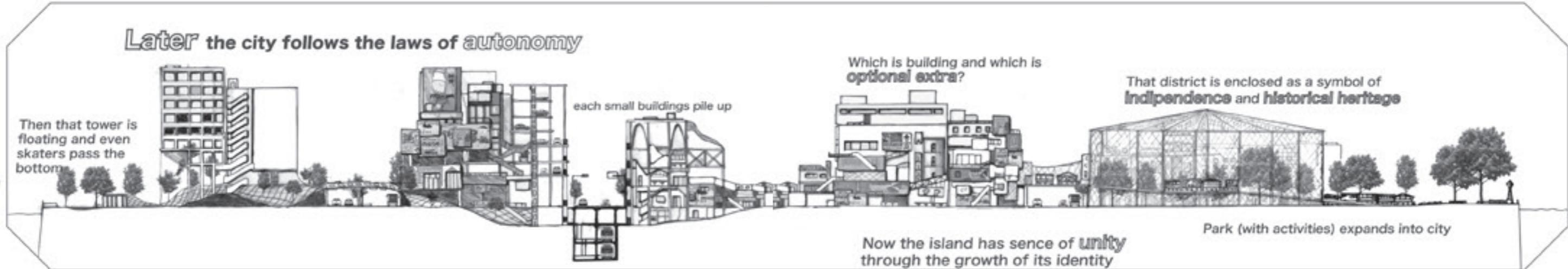
Ordinary city follows the system



Autonomy of this city GROWS and EMERGES into architecture



Later the city follows the laws of autonomy

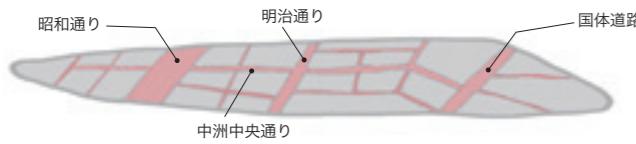


method : 中洲のストラクチャーを設計する

○ master plan

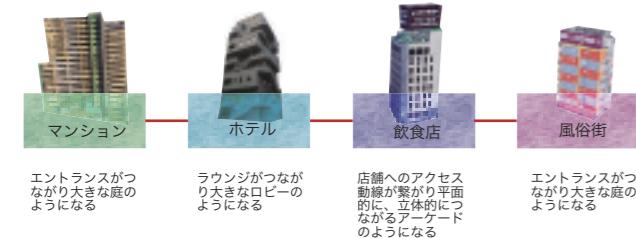
・道路を敷地と捉える

現在の中洲は福岡から博多への都市の連続により島としてのアイデンティティを失っている。しかし、屋台や飲食店、風俗店のように、中洲としてのアイデンティティは道の上にはみ出るように溢れている。中洲の中心を通る道の上に島の背骨のように建築を設計する。



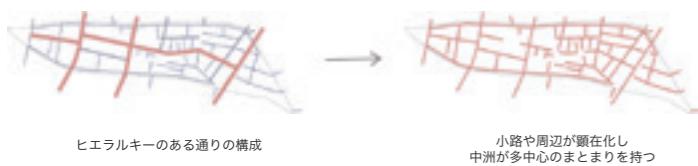
・分断したプログラムを接続させる

横断する計画道路によって分断された領域に対してそれぞれの自治を支えるストラクチャーとなるような建築を計画し、長手方向に連続させることで中洲を一つの舞台として生活する風景をつくる。



・中心を無くす

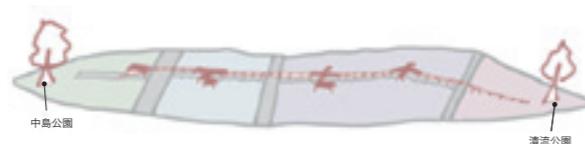
道路と建築がスイッチし、分断されたプログラムを接続させることで都市計画によって作られた中心が侵食される。それによって中洲に点在する小さな風景が連続し多中心的な島になる。



○ diagram

・phase 1 中央通りに建築と架構が伸びる

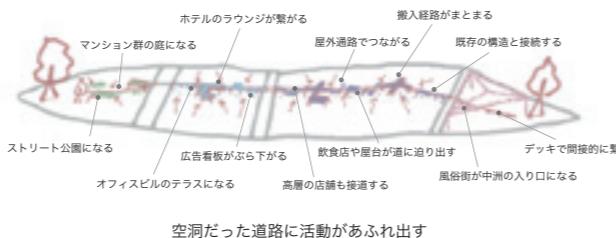
現在の中洲の中心は中洲を横断する3本の大通りに唯一接続し、飲食街を縦断するアーケードのように計画された中洲中央通りである。この道路を覆うようにそれぞれのプログラムに合わせたコアを部分的に計画することで都市的な長さが失われる。さらにそれぞれの建築が架構でつながることで自治と計画理念がスイッチし周辺の既存に変化を与える。



中央通りを覆うように建築と架構が伸びる

・phase 2 建築と架構を拠り所にして中洲の小さな断片がつながる

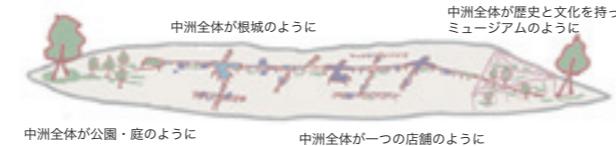
配置される建築は周辺の既存と連続性を持つように計画される。さらに道路による制限から自由になった中洲はその建築や架構を頼りに繁殖していく。既存の計画原理によって形作られるアーケードは、中洲の活動が連続することで現れるアーケードに上書きされる。



空洞だった道路に活動があふれ出す

・phase 3 島全体に活動が波及する

中洲の自治的な活動によって建築の周辺に変化が現れ、やがてそれが島全体に波及することで自治をストラクチャーとした一つの建築のようなシルエットを持つようになる。



progress: 中洲に波及する変化

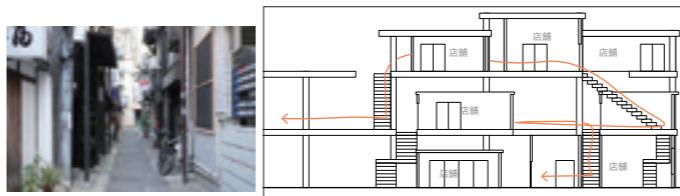
・空間体験の変化

空間として一つのテーマを持ったまとまりとなることで、断片的に存在していた様々な活動が中洲を大きな舞台とした一つの出来事として認知されるようになる。それにより、意識の中でも中洲というシルエットが浮かび上がるようになる。



・店舗の集合形態の変化

架構を頼りにして木造密集地の店舗の集合形態が変化する。平面的な奥性が立体的に展開し、中洲全体に連続する。



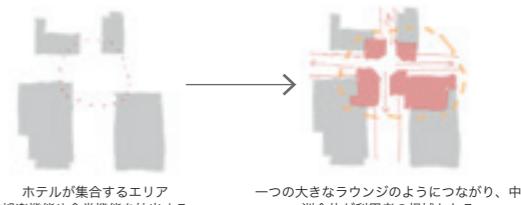
・搬入経路の変化

昼間に中央通りに業者の車が並び一つ一つの店舗に納品するのではなく、搬入庫としてのプログラムを建築に設計することで合理性が増す。



・宿泊施設の変化

一つ一つのホテルに設けられた娯楽機能や食堂機能を接続させ、一つの大きなラウンジを作る。利用者は中洲全体が根城のように振る舞う。



ホテルが集合するエリア
娯楽機能や食堂機能を抽出する

一つの大きなラウンジのようにつながり、中洲全体が利用者の根城となる

・公園と居住環境の変化

大通りに面した既存の駐車場を拡張しマンションの駐車スペースを賄うことでの道路を公園化する。既存の一部を減築することで開放としたマンション街は公園としての賑わいを持つようになる



・風俗街の印象の変化

風俗街は中洲の文化と歴史の集積である。その存在を必要悪として扱うのではなく、風俗街の持つ閉鎖的な環境を建築化することで、風俗街が中洲の顔、入り口となるように変化する。





飲食街部分平面2F

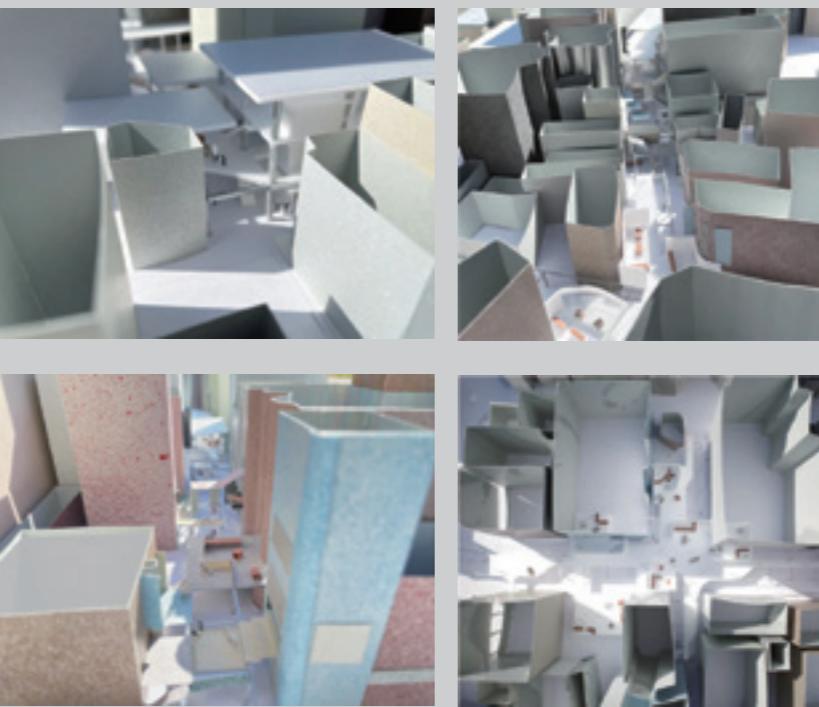


飲食街部分平面1F

conclusion

本提案では、都市が地域性を持つということに対し建築が提供しうる価値として、中洲のそれぞれの領域に対して自治活動を誘発するストラクチャーを与えることを試みた。このストラクチャーに対して中洲を自分のものとして獲得していくような活動が作用することで、この島の自治という特殊性からなる都市が空間として現れる。またこの変化の連鎖が、複数性と多様性を伴った中洲の豊かさをもたらすとともに、島としての様相（全体性）の発現つながると考える。

本提案は、自治という中洲の特殊性に着目した建築の可能性の提示であり、中洲の都市としてのビジョンを示すものである。



Comments from Classmates

コンセプトから結論に至るまで、筋の通った作品でした。中洲の自治性の空間への発展はすごいなと思います。具体的に表現しすぎず、丁寧なリサーチや中洲の変遷を描くような立面のドローイングにより、破綻せないバランスで的確に自身のイメージする中洲の都市計画的な将来像を伝えていた上手さを感じる一方、1/50の部分模型などで自治的な空間を細かく見てみたかった！

藤澤太朗

中洲のプロジェクトも平面図にかなむらしさが出ていたと思った。周辺の既存建物や活動と自分の提案とを完全に溶かし合い連続した環境全体を伝えていた。子供センターの頃から、地域の構造を読み取りそこに対して設計者が複数人いるかの様な、あるいは別々の期間に設計したかのような提案をしていたと思うが、そのかなむらしさが今回の自治という発散していく提案にも結びついていると感じた。全体のドローイング、模型のスケール感等も中洲自治の要点をついていたと思う。

前本哲志

カナムの卒制への取り組み方には共感する部分が多く、「面白いプロジェクトにするぞ」という気概が半年間途切れることなかったように思う。それ故にこのような情勢の中でお互い議論しながら卒制に取り組めたことに感謝したい。カナムが今から進む計画研はできた建築を評価する学問であるという点で建築設計とは異なる。進路が決まってからの半年間のカナムを見ているとその反動からか、建築設計への熱が沸き上がっていくのを感じた。物事を面白がる感性は学年の誰よりも長けていたと思うのでこれから2年間で計画学を通してもっと素直に建築を好きになって、逆噴射してほしいと思っている。

宮本皓章

自分と同じく周囲を水に囲まれた敷地で、中洲を一つの大きなまとまりとして見せるための操作とそこに持っていくための筋道が上手いと思った。いろいろ悩みながらもコツコツ進めていった印象があり、そこもシンプルすごい。立面のスケッチとかかなり面白そうなものを予感させるのだが、1/300のスケールから大きくしていったときに、より多くの設計条件が出てくると思うと、まだ詰めるところはあるかもしれないが、細かい部分部分でどういうことが起きるのはやはり気になるところ。表現が上手いから、そういう方向で何か提示できたら良かったと思います。かなむの真面目なところと元気なところがどちらも見て、結構好きです。

馬場一輝

敷地環境が地理的にも歴史的にも魅力的で様々なコンテキストが多く、方向性や目指すところが見えても、具体的に何を設計したらいいのか、ずっと考えていたのをよく一緒に作業していたので知っていました。なので最終的にできたものが、かなむの中で卒制取り組む前から考えていることや設計で触れているを超えた、かなむらしい卒制になったと感じ、より素晴らしいと思いました。また、どのように中洲性を島全体つくっていくのか気になっていましたが、設計したストラクチャーがさらに自治的に使いこなされ、広がっていき、中洲という異世界が自治的につくられていく未来を感じさせてくれる素晴らしい提案だったと思います。

堅実な男かなむの着実に進めていく卒制に刺激されたおかげで、なんとか自分もできたと思います。そして円錐会賞おめでとう。

上山信